



83, 2, 1
No. 1255

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六・(公衆電話)三三二七二〇七

国鉄千葉動力車労働組合

勤労革命を打倒せよ!

一月訪韓一訪米、そして、ロッキード犯田中角栄への求刑という事態をもう一つの反動的パネとして、中曽根内閣はいよいよ凶暴な地金をむき出して労働者・人民に襲いかかってくる。

そして今日、労働者・人民の抵抗の砦を叩きつぶし、改憲戦争体制づくりへの環をなす「三里塚闘争と国鉄労働運動」解体攻撃は、いよいよ本格的に激化している。

国鉄をめぐるカサにかかった大合理化の強行・緊急11項目を始めとする反動的職場支配の転覆・処分の乱発……等々を強行しながら、支配者階級は三月を目途にいよいよ懸案の最重要反動攻撃「国鉄再建監理委員会設置法強行」と動きはじめています。

国鉄労働者の反撃に、一層凶暴に襲いかかる敵階級とその先兵「革マル」

もうガマンならない! 国鉄労働者は全国至る所で怒りの決起、不屈の反撃に起っている。昨年一年間の苦闘を通し、とりわけ「57・11ダイ改」をめぐる敵との攻防、動労「本部」革マルとの対決を通して勝ちとられた反撃への突破口から、40万国鉄労働者の怒りと底力がほとばしり出ようとしている。

ところが、このような壮大な反撃が開始された正にこの最も重要な瞬間を狙って、またもやあの極悪のファシスト集団たる動労「本部」革マル反動分子どもが、恥知らずにも「国労を解体せよ」と叫んで、集団を組んで国労職場に押しかけ・介入し、暴行・脅迫まがいの組織破壊行為を開始したのである。何という反労働者の集団であることか! われわれはこの事態を決定的に重大視し、怒りをこめて断罪する! まごうことなき全労働者階級の敵「臨調・自民党・国鉄当局の手先」動労「本部」革マルを闘う国鉄労働者の共同必須の闘いとして、全国の職場から一人残らず粉砕し叩き出さねばならない。

動労革マル分子が国労職場に押しかけ、国労組合員をゴリ糾!

一月二十日、動労東京地本北部ブロックに巣くう動労「本部」革マル反動分子ら多数が、国労の機関に何の連絡も了承もなく突如として国労東京地本上野支部の職場に押しかけ、居あわせた国労組合員をとり囲んで「今の時期、臨調攻撃と闘え」という国労の方針は問題だ、「攻撃を挑発するから反動的」「57・11ダイ改での国労方針は誤りだ」「国労幹部はメンツで組合員を引きまわしている」「動労が闘争を裏切ったなどと言うことはけしからん」等々……と、脅迫まがいの「イデオロ」と称するつるし上げを行うという事態が生じた。

また、ほぼ時を同じくして、東京地本傘下のいくつかの職場でも同様の押しかけ・ゴリ糾・組織介入が一斉に開始された。ある電車区では、ホームの端に陣取った多数の動労「本部」革マルを先頭とした集団が、三人一組のチームを組んで、乗

その1

務を終って降りてくる国労の乗務員を一人一人とり囲んで無理矢理論議をふっかけ、電車区の中に至るまで「討議しよう」としつこくまとわりつくというようなことまで行われた。わが動労千葉の組合員や、動労内で闘う戦闘的良心的仲間がこれまで幾度も経験させられた、あの陰湿で卑劣な革マル独得の「集団オルグ」「イデオロ」と称するつるし上げ・脅迫の組織破壊攻撃が、今や国労組合員に対して無差別に開始されたのである。

動労「本部」革マル松崎 明の恥知らずな「公開討論の申し入れ」

この国労組織への反労働者の介入に先だって動労革マルの指導者・松崎 明(東京地本委員長)は、国労東京地本宛にオコガマシイ限りの「公開討論の申し入れ」なるものを、昨年十二月二十五日に行つた。「裏面に掲載の『抜粋資料』を参照されたい」

一読するまでもなく、これこそかつて例を見ないベテンと居直りのみならず、戦闘的国鉄労働者に対し暴力的に「粉砕すること」を宣言する」との反動的ドウ喝を書きならべ、おまけに「期限つきで回答せよ」とつけ加えて送りつけた、実に破れん恥きわまりない「ヤクザの果し状」そのものである。

そのことのみでも許すことのできない、まともな労働組合の常軌を完全にはずれた無礼蛮行であるにもかかわらず、松崎 明はじめ動労「本部」革マルは、一月十日に当然にも国労東京地本が「問題にすらならない」と回答をしたことを口実に、暮のうちからあらかじめ動労東京地本青年部の極悪の革マル反動分子どもを中心として編成しておいた三人から五人で一チームを組んで行動する「ゴリ糾部隊」を、国労機関を無視して直接大量に国労職場に投入したのである。

動労「本部」革マル・松崎 明は、国労組織を暴力的に破壊する攻撃を公然と開始するための「口実」づくりのために、「申し入れ」なる手紙を「一応」形式的に踏んだにすぎない。どこまでもうす汚いファシスト集団であろうか。以下、その「内容」を見てみよう。

